

記事

[Yoichi Miyashita](#) · 2023年3月3日 3m read

ジャーナル圧縮機能について

2022.1 及び 2021.2 から 新たにジャーナルファイルの自動圧縮機能がサポートされました。

この機能によって、わずかなCPUコストでジャーナルファイルが占有するDisk容量を大幅に削減する事が可能になります。

実際のお客様環境でジャーナル・ファイルの圧縮率85%という非常に高い効果が確認出来たケースもございます。
(圧縮効果はジャーナル・ファイルに記録される更新データの内容に依存します)

圧縮はミラージャーナル・ファイルに対しても行われます。

動作メカニズム

1. 現在書き込み対象となっている“アクティブ”なジャーナル・ファイルのサイズが規定サイズに達し、ジャーナル・ファイルの切替が発生すると、それ以降に発生するジャーナル・レコードは新しいジャーナル・ファイルへ書き込まれるようになります。
2. 今迄書き込み対象となっていたジャーナル・ファイルはこれ以降は書き込みされない、“非アクティブ”、すなわち、更新のない静的なファイルとなった為、システム・プロセスによりジャーナル圧縮処理が開始されます。
3. 圧縮が完了すると、圧縮前の非アクティブな元のジャーナル・ファイルは削除されます。
そして圧縮されたジャーナル・ファイルはファイル名の末尾に“z”が付加されます。

一連の処理は、IRISシステム・プロセスが自動的に行います。

そのため、ジャーナルが切り替わるとすぐに、非アクティブなファイルの圧縮が開始されます。

圧縮されていない従来のジャーナル・ファイル同様に、圧縮されたファイルから直接、ロールバックやロールフォワードが実施できます。

またIRIS上の様々なツールや管理ポータル上から直接圧縮されたジャーナル・ファイルを扱う事が可能です。
(圧縮されたジャーナルファイルの指定にはファイル名末尾の“z”を省いた名前を用います。)

ジャーナル圧縮の設定方法

ジャーナル圧縮機能は新規インストールでは デフォルトで 有効になります。

アップグレードでは前の値を継承します。2022.1より前のバージョンからのアップグレードでは無効となります。

また、以下の方法で変更する事が出来ます。

1. 管理ポータル システム > 構成 > ジャーナル設定 - (構成設定) の “Compress journal files”
2. CPF ファイルを直接変更 [Journal] セクション CompressFiles= 0なら無効、1なら有効
3. ^JOURNAL / ^JRNOPTS CHUIユーティリティー “6) Compress Journal files”

messages.log には以下のようなメッセージが記録されています。

```
02/14/23-10:41:32:466 (30640) 0 [Utility.Event] Journal File Compression: Compressed  
d:\iris\journal\20230214.002
```

[#システム管理](#) [#ジャーナリング](#) [#InterSystems IRIS](#)

ソースURL:

<https://jp.community.intersystems.com/post/%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%BC%E3%83%8A%E3%83%AB%E5%9C%A7%E7%B8%AE%E6%A9%9F%E8%83%BD%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6>